

## 星城二代 ～父から息子へ～



(息子) 岩田 将輝 さん (父) 岩田 博司 さん  
(星城高等学校第43回生) (星城高等学校第12回生)

### 【プロフィール】

博司さんは、大学卒業後、新聞社へ入社。現在は、先代の商売を継いで、ネオロックス代表取締役。将輝さんは、星城大学在学中。

### 高校時代の思い出や印象に残っていることは。

(父) 部活と恩師に恵まれたことです。今は、明德館が建っている場所が武道場でした。スレート屋根のプレハブで、夏は暑く、冬は寒く、心身ともに鍛えられました。

(息子) 私も部活です。最初は「あまり辛くないだろう」という気持ちで入部しましたが、その考えは一瞬で吹き飛びました。部活を通して人間的にも成長できたと思います。

### 息子さんの進学の際にアドバイスは。

(父) 高校入学時は「部活を3年間続け、3年間休まず通学すること」を約束事としました。大学では、たくさんの友だちを作り、いろいろな世界にも目を向けるようにアドバイスしました。

### 高校時代に学んでおくのと役に立つことは。

(父) 人間関係をたくさん作ることだと思います。中学とは違い、広い地域から来ているので、たくさんの友だちが作れること。それと、公立高校と違い先生方の異動がないので、卒業後も長くお付き合いができる先生と出会うことだと思います。

(息子) 人の輪をたくさん作ると楽しい高校生活が送れると思います。

### 後輩へ一言。

(父) 感謝の気持ちを忘れず、のびのびと高校生活を送り世界に羽ばたくような大きな人間になることを期待しております。

(息子) 何事にも、ベストを尽くして頑張ってください。

## Topics 2人の星城大学留学生在が 日本語弁論大会で上位入賞

第1回「留学生の主張」日本語弁論大会(主催:日中文化協会、後援:愛知県、中日新聞社ほか)で、2人の留学生が見事、上位入賞を果たしました。

留学生の日本語能力の向上と文化・習慣の習得を目的に今年から始まったこの大会には、東海地方の大学に通う多数の外国籍学生が参加。この日、1次の論文審査を通過した10大学14人(6カ国・地域)のアジア系出場者が、5分間の持ち時間内に巧みな日本語を駆使して熱のこもった弁論を展開しました。

審査の結果、優秀賞(愛知県国際交流協会賞)に輝いたのは、グルバザル・エンフジャルガルさん(モンゴル・経営学部4年生)の「心の中のマンホール」。故国では住宅難と貧困から公道の下での穴倉生活を余儀なくされているマンホール・チルドレンを引き合いに出し、暮らしは豊かでも心の中に闇の空洞を抱え込む日本の子どもの精神構造を鋭く突き、深い感銘を与えました。特別賞(遠発国際賞)は、陳登さん(中国・経営学部4年生)の「夢を諦めずに!」。アルバイト先の料理店で6枚も皿を割り、落ち込んでいた時、優しく声を掛けられたことで再び生きる勇気が湧いてきたとのことでした。

当日は、予選を勝ち抜いた精鋭たちの接戦の末、星城大学の2人の留学生が入賞し、熱心な取組みの成果を表わす結果となりました。



【表彰状を手に、喜ぶ留学生】

## 星城懇話会だより

6月4日

平成22年度星城懇話会役員会・総会がホテル名古屋ガーデンパレスにて開催されました。席上、平成21年度事業報告および決算報告、平成22年度事業計画(案)、収支予算(案)について説明があり、審議後、承認されました。また、会長の任期満了に伴い、谷口正明氏(株式会社正文館書店代表取締役)が新会長に就任されました。

総会終了後、西川右近前会長を講師に迎え「にんげん見本帖 心に残るあの人の言葉・この人の生き様」を演題



【財団法人 西川会 三世家元 西川 右近氏】



【総会にて】

に講演会が行われました。各界の巨匠とのエピソードを交えながら、人との出会いの大切さや、芸は人から人へ、言葉から言葉へ受け継がれていくことなどを話され、また日本舞踊を元に考案され、介護予防にもなるNOSSの実演まで披露されました。



学校法人 名古屋石田学園  
法人本部 企画室

〒460-0008 名古屋市中区栄1丁目14番32号  
TEL:052-221-8921 FAX:052-203-5243  
URL:<http://www.n-ishida.ac.jp/>  
E-mail:main@n-ishida.ac.jp